

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米FOMC議事要旨で今後の姿勢をチェック

2022年5月23日

今月3日、4日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨が25日(日本時間26日午前3時)に発表されます。

今月のFOMCでは2会合連続となる利上げを決定しました。利上げ幅は3月の0.25%ポイントから0.5%ポイントに拡大されています。0.5%ポイントの利上げは2000年5月以来となります。

また今月のFOMCでは6月からのバランスシートの縮小(QT)も決定しました。これらの決定はおおむね市場予想通りとなりましたが、今回の議事要旨で、この決定に際してのメンバーの姿勢などが注目されることとなっています。

今月のFOMC後の会見でパウエルFRB議長は、6月と7月のFOMCでの0.5%ポイントの利上げ継続に言及しました。大幅利上げ継続の姿勢をはっきりと示した議長の姿勢の背景にある、FOMCでの議論の内容が注目されることです。

また、パウエルFRB議長発言で市場の1回0.75%ポイントの利上げへの期待感が一気に後退しました。議長以外のメンバーが0.75%ポイントの利上げにここまで言及していたのかなども注目されるポイントとなります。

米国の物価は11日に発表された4月の米消費者物価指数(CPI)が前年比+8.3%となるなどかなり高い水準で推移しています。米CPIは3月の前年比+8.5%から鈍化していますが、これは原油高が少し抑えられたことにより3月から4月に向けてガソリン価格が低下したことが主要因でした。3月分の消費者物価指数の内訳では、前年比+48%となっていたガソリン価格は、4月分では+43.6%となっています。水準的には相当に高いですが、3月からは鈍化した分、4月分の鈍化につながっています。

もっとも、ガソリン以外の項目を見ると、食料品などを中心に3月以上に物価が大きく上昇しているケースが目立ちました。そのため、全体の数字も3月よりは鈍化したものの、市場予想よりは高いという結果になりました。

4月分の数字如何では物価のピークアウト感が高まるという期待が一部で広がっていましたが、あくまでエネルギー価格の上昇一服による一時的な鈍化で、しかも鈍化が小幅なものにとどまったという印象です。さらに、ウクライナ情勢の長期化などから、ガソリン価格は5月に入って再び大きく上昇しています。4月は月平均のレギュラーガソリンの価格(EIA調査・全米全種平均)が1ガロン当たり4.109ドルでしたが、5月に入ってその水準を大きく上回る推移が続いています。週ベースでも数字が示されており、直近5月第2週の週平均価格は4.491ドルと4月の月平均より約9.3%高い水準で推移しています。5月以降、物価高傾向が継続する可能性が相当に高いと見られます。

こうした状況の中、FOMC議事要旨において、今後の積極的な引き締めに向き姿勢が示されるようだと、9月以降の大幅利上げ継続期待が強まります。

金利先物市場動向から見た利上げ確率を示すCMEFedWatchでは、6月、7月の0.5%ポイ

ント利上げをほぼ完全に織り込んだ後、9月については0.25%利上げと0.5%利上げで見通しが拮抗しています。議事録次第で0.5%見通しが強まるようだとドル買いにつながると期待されるところです。

その他通貨では25日に予定されているNZ中銀金融政策会合の結果発表が注目されます。これまでNZ中銀は4会合連続で利上げを実施しています。さらに前回は利上げ幅を0.5%に拡大しました。こうした後を受けて今回の会合ですが、前回と同じく0.5%の利上げが見込まれています。

今月12日に発表されたNZ中銀2年物インフレ見通しが引き上げられるなど、インフレ見通しが高いところでとどまっていることもあり、利上げ自体はほぼ確実視されています。利上げ幅についても、一部で0.25%に戻すという見通しが見られるものの、大勢は0.5%利上げとなっています。

市場予想通り0.5%利上げとなった場合、注目は声明などでの今後の姿勢となります。NZでも利上げによる景気鈍化への警戒感などが見られる状況。今後の大幅利上げ継続に慎重姿勢が見られるようだと、一旦はNZドル売りの動きが強まる可能性があります。

ただエネルギー価格の上昇などを受けた物価高傾向がNZでもまだまだ続くと思われる中で、NZ中銀は引き締め姿勢を維持してくると見られます。この場合はややNZドル買いの材料となります。

世界的に物価高が急速に進行し、アフターコロナでの景気回復期待が後退、景気鈍化への対応と物価高への対応という難しいかじ取りを多くの中銀が強いられています。状況次第で今後の金融政策見通しが変化しやすい局面だけに、金融政策会合や議事要旨などの材料への注目度が高まっていますので、要注意です。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。